

(別紙)

令和6年度 静岡県立浜松南高等学校第2回学校運営協議会議事録

I 日 時

令和6年11月7日(木) 午前10時から午後0時10分まで

II 場 所

静岡県立浜松南高等学校 第一応接室

III 出席者

学校運営協議会委員

鎌田 徳之 (PTA会長)

川嶋 利博 (新津地区自治会連合会長)

川嶋 利幸 (浜松ホトニクス株式会社 産業開発センター長)

塩見 彰睦 (静岡大学大学院総合科学技術研究科情報学領域 教授)

奈木真由美 (同窓会長)

欠席者

林 左和子 (静岡文化芸術大学文化政策学部 教授)

山下 広祐 (株式会社春華堂 直営部運営推進課長)

学校職員

校 長 鈴木 学

副 校 長 加藤 文人

教 頭 山崎 修司

教務主任 小粥 俊輔

欠席者

事 務 長 村松 傑

IV 内 容

1 授業参観

2年生4クラス(国語・化学・英語・理数化学)の授業を参観した。

2 校長挨拶

本日の授業は、事前に参観することを伝えていたわけではなく、普段の授業を見て頂いた。この後の協議事項で感想を踏まえて、生徒の学びについて述べて頂きたい。

本日の朝刊で募集定員が発表され、本校は普通科1クラス減となった。昨年度入試で100名程度の不合格者がありながら定員減となった。また、本日の議事は、最終的には来年度の学校経営計画に反映させたい。

3 議事

(1) 生徒の主体的な学びについて

ア 校長説明

教員が生徒にテーマを伝えても、やるべきことが増えて、結局生徒には伝わっていないのではないかと感じる部分がある。生徒の自学に向けての仕掛けやトピックを用意してもらいたい。最近プロジェクターやプリント学習が増え、生徒が穴埋め学習になっており、授業参観後にメモを取らせる工夫を求めたこともある。委員の方々が感じ取った感想（テーマや仕掛け）や雰囲気等を教員にフィードバックしていきたい。

イ 協議

【委員より意見・質疑 等】 ○委員 →学校関係者

○テーマが黒板に書かれていると思ったら、そうではなかった。自分が関わっているボーイスカウトでは必ず明示している。

○民間の研修ではゴールを示していて、研修を受ける社員も自分のテーマを持って参加している。高校授業も生徒が自ら学びたいことをテーマとして持って参加出来たら良いのでは。

○1クラスの人数が多いと感じた。小中学校は1クラス30人程度である。人数が少ない方が言葉のキャッチボールをしやすいのではないか。今の高校は義務教育に近いので、教室数や教員数等難しいとは思いますが、手厚い指導ができるとうい。

○昔の高校進学感覚が、今の大学進学のようになっている。皆が進学するとなると能力の見極めが困難になる。昔の方が目的を持って進学していたと感じる。

○大学進学後に何をしたいか迷っている学生もいる。行ける大学に行く感じになっているのでは。

○教科書や副教材が多く、厚くなっていると感じた。

→QRコードが付いている教科書等もあるが補助的で教科書が薄くはなっていない。大学では電子化が進んでいるのか？

○講義は電子データを利用している。

○ICTの利用は積極的ではない印象であった。小中学校の方が使っているのではないか。

○若者はプライベートで使っているので、社会に出てからも役立つ方法を教えたら力になるのではないか。プライベートだけではスタンダードが無く、自分だけの世界に入ってしまう。いずれ社会人として日常で使うので、そのためにも身に付けてほしい。

○生徒は辞書を持っているのか。

→生徒一人一台端末に電子辞書が入っている。

○教科書は学校用とし、自宅はデジタルにできないか。デジタルになれば検索機能等が使い便利になる。

- 実際のところ、教科書は持ち帰っているのか。
- デジタル教科書は別に費用が掛かり、教科書の電子化は進んでいない。教科書を自宅に置いて、必要なページの写真を端末に入れて授業に参加している生徒はいる。
- 自宅で電子デバイスによる宿題提出までやれば教員の手間も減るのでは。工夫によってお互いの負担が減らせれば良い。
- 宿題が重なるので調整して欲しいとの声を他校で聞いた。教員のコミュニケーションで工夫できるのでは。
- 過去に学年のホワイトボードを用いて宿題内容の共有を試みたが、長続きしなかった。
- 化学の授業で教え合いが見られた。もっと増えてほしいと思う。これは教員の持って行き方なのか、クラスの雰囲気なのか。
- 教員から声掛けをする場面もあるが、クラスの雰囲気によって大きく違う。
- 以前、理数科の授業参観をした際、生徒同士が自然に相談していて良かった。先生も自由に相談させていて、生徒が自ら学ぶ姿勢が良かった。
- 理数科生徒はそのような気質を持った生徒が多いが、普通科はグループワークでも主導権を握る生徒は少ない。例えば、2年生理数科は担任が数学ということもあり、週替わりで黒板に担任が難しい問題を書いていて、休み時間に生徒が相談している姿がある。
- デジタル化の必要性は認識しており、Cラーニング等も導入しているが使いこなせてはいない。授業のテーマを明確にすることや、生徒が何を目指すべきか理解させることを職員に伝えたい。

(2) 今後の浜松南高校の在り方について

ア 校長説明

<浜南の課題>

- ①新校舎も併せて浜南のイメージを作り、伝えたい。解体工事が既に始まっている。
- ②大学入試の多様化。生徒の進路実現に繋がる探究活動が教員の負担増を生んでいる。
- ③特色ある普通科。特色は必要だが、ありすぎると中学生の志望が減少する傾向もある。
- ④高校生活に疲労感や適応に困難を感じる生徒が増加している。欠席が毎日40人程度いる。
校内研修を実施し、学校の進むべき方向や課題解決策について意見を出し合った。その意見を資料に掲載した。

<今後の浜南の方向性>

- ①進学校として今後も生き残る学校。納得する進学結果の継続。

②自学する生徒が育つ学校。

③生徒・教職員が明るく元気に登校する学校。

補習と部活動について維持と削減、両方の意見がある。

これらの課題について来年度から試行を開始し、新校舎完成年度で解決を目指したい。

イ 協議

【委員より意見・質疑 等】 ○委員 →学校関係者

○進学校の表現をもっと具体的にしてはどうか。例えば、国公立大学進学率を明記する等。

○国公立の考え方も様々。初めから私立を目指している生徒・保護者もいる。国公立を勧める教員と生徒のニーズのすり合わせが難しい。そこを親がどう見ているかが重要。実際の進路希望は親が決めている家庭もある。生徒には、大学に進学した先、社会に活躍できるところまでを考えさせてほしい。

○大学まで無償化になったら、経済負担が無くなり、自由意思で選択できるようになるのでは。

→他県で、18歳成人の関係で、生徒が親の反対する大学に自分の意思で進学、奨学金や教育ローンを借りた事例があった。今後、顕在化する問題かもしれない。

○学校のアピールという点で、平均的な生徒は国公立を目指し、優秀な生徒に手厚い指導をするのはどうか。ライバルとの差別化にはなるが、県立高校なのであからさまに行うのは難しいかもしれない。

○浜松地区でトップの中学生は北高へという印象。そこで南高は？ということですね。

→ネット記事ではあるが、私学の台頭で南高の様な進学校は無くなってしまおうという内容が掲載されていた。

○校舎建て替えはチャンスである。以前から、南高の器の広さが好きだった。

○様々な生徒、多様性を受け入れていると感じる。

→方向性はこのままに、外へのアピールに力を入れ、他校ではなく本校を選んでもらえる学校を目指すことを全職員で共有したい。

→業務改善として、定期テストの回数や模試、補習等の見直しを行いたいと考えている。削減等の活動に関する助言を頂きたい。

○19:30 完全下校は継続しているのか。昔は19:00であったような。

→以前から19:30である。

→職員終業16:40に対しての時間なので扱いが難しい。顧問が生徒のやる気に応える形で成り立っている。

○中学校では部活動の地域移行が始まっている。

→掛川市は先行している。令和8年度には中学校の部活動が無くなる。中学では専門家が指導するが、高校では素人の顧問の指導という矛盾が生まれる

課題もある。次回は部活動についても協議できるとありがたい。

○1年生の部活動全員加入について親から意見をもらうことは無いか。

→実際には積極的な活動を行わない生徒を受け入れる部活動もあるので、今のところ全員加入についての問い合わせは無い。逆に、もっと活動して欲しいとの声がある。

○教員は、部活動をやりたい人と、そうでない人がいるのでは。

→生徒が頑張っている姿を見て、協力してくれている。

○外部指導者やOBに見てもらうことはできないのか。

→可能ではあるが、任せっきりににはできないので、顧問は必要。今年度、指導員として2名お願いしているが、予算の関係で増加は難しい。

○企業にスポンサーになってもらうことはできないか。生徒が企業を知ることにもなるし、地域との連携活動にもなる。学校のアピールにもつながる。

→既に考えていたことではあるが、法的な課題等を調べられていない。

○外部指導者への謝礼が低いと集まらないのではないのか。

→現状も高額な謝礼は出せていない。

補習についてもご意見を頂きたい。

○補習の公欠とは？

→部活動の大会等で休みが多く、生徒が集まらないことがある。

○補習の目的は？

→授業内で理解しきれない生徒を補う講座や受験対策の講座等がある。

○生徒が望むなら、あった方が良くと思う。

○補習を止めたらレベルが下がるのか？

→検証できていない。以前、他校で補習（進学・検定取得）を止めたことがあったが、進学実績は変わらなかった。検定合格率は一時的に下がった。

→他校で、外部委託後に止めたことがあった。本校ではどちらの方向に進むのか判断が難しい。

→本校職員は時間外勤務時間が多い現状がある。退庁時間の設定も難しい。

○何かを止めなければ、時間は減らない。

○生徒会誌は、記録として残してほしい。

→今回結論が出ることは無いと思うので、各自持ち帰って、次の12月でも話し合いを行いたい。

4 今後の予定

(1) 第3回 令和6年12月20日(金) 13:30から15:30(理数探究発表会)

(2) 第4回 令和7年2月13日(木) 10:00から12:00(年間反省及び次年度に向けて)